

発行：2010年7月24日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦  
 連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083  
 ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

山口新聞掲載記事 東流西流「タイでトイレをつくる」 シャンティ山口理事 安藤公門

## 東流西流



安藤 公門

「トイレの神様」(植村花菜：作詞作曲)という歌が静かにブレイクしている。昨日も、たまたま通りかかった宇部市新天町商店街で流されていた。トイレには女神様が住んでいて、掃除をきちんと行くと願いごとを叶えてくれるという祖母のことばがテーマの歌だ。この歌に便乗するわけではないが、しばらく使

所と糞尿の話にお付き合  
 い願いたい。とはいって  
 も、この分野は範囲も広  
 く奥も深い。先学も数多  
 い。そこでタイ北部バヤ  
 所、養育園、学校宿舍、  
 図書館のトイレ設備を設  
 置した。

### タイでトイレ造り

オスの農山村地帯でのNPPO法  
 人シャンティ山  
 口のトイレ造り  
 の実践報告に話  
 を絞りたい。  
 シャンティ山  
 口は10件のトイレ  
 レ設備を造って  
 きた。最初は自  
 己資金で個人の住宅、シ  
 ャンティ学生寮、それに  
 養豚排水のガス化実験な  
 ど。昨年度までの3年間  
 は、地球環境基金と今井  
 ンティ山口理事)

タイ北部バヤオ県。ラ  
 オス国境にほど近い、山  
 岳少数民族モン族の居住  
 する五つの村での事業で  
 ある。なぜ、トイレ設置  
 事業に取り組みようにな  
 ったのか、どんな仕組み  
 なのか、どんな人たちが  
 それを進めてきたのか、  
 今後どのように発展して  
 いくのか、そんなことを

## 東流西流



安藤 公門

NPPO法人シャンティ  
 山口の事務局長佐伯昭夫  
 さんは、1993年結成  
 以来、ラオスからの難民、  
 タイ北部の山岳少数民族  
 モン族への支援の活動を  
 続けてきた。  
 1998年6月、初め  
 て雨季に訪問し、シヨッ  
 キングな光景に出合っ  
 た。「子どもたちが水溜り  
 で遊んでいるのですが、  
 人糞の塊をおもちゃにし

### 雨季の子どもたち

もともとシャン  
 ティ山口の活動の  
 目的は、モン族の  
 生活の自立支援で  
 ある、とくに子ど  
 もたちの就学支援に力を  
 注いできた。衛生問題に  
 直面し、翌年1999年  
 から、現地の保健所の協  
 力を得て、支援し、かわ  
 市、シャンティ山口理事)

目的のあることをは  
 じめ深く考える  
 ようになりました  
 た」  
 外にトイレの小屋を建  
 て、その下に素掘りの穴  
 を掘って、穴に茅をかぶ  
 せておくものが普通だっ  
 た。次第に、コンクリート  
 の製品が普及するようにな  
 るが、雨季に地表を糞尿  
 が流れることに変わりは  
 なかった。考えあぐねて  
 いたある日、便所の側で  
 佐伯さんは、日本の昔の  
 ある方法がいいのではな  
 いかと思いついた。(宇部

ているのです。糞の塊が  
 地表水を流され、水溜り  
 に浮いていて、子どもた  
 ちはその中で平気で遊ん  
 でいるのです。汚染と感  
 染症の問題が日常  
 にあることをは  
 外にトイレの小屋を建  
 て、その下に素掘りの穴  
 を掘って、穴に茅をかぶ  
 せておくものが普通だっ  
 た。次第に、コンクリート  
 の製品が普及するようにな  
 るが、雨季に地表を糞尿  
 が流れることに変わりは  
 なかった。考えあぐねて  
 いたある日、便所の側で  
 佐伯さんは、日本の昔の  
 ある方法がいいのではな  
 いかと思いついた。(宇部  
 市、シャンティ山口理事)



安藤 公門

モン族のトイレ衛生環境の改善は、タイの地元政府の推奨もあって、タイの農山村で行われている方式によることになった。佐伯さんの「ある発見」に触れるまえに様子を見てみよう。

トイレの建物は、住宅部分とは別の小屋にする。トイレの内部は便器と水桶があり、手洗いの容器を常備する。左手で尻を拭き、紙は用いない。

東流西流

用便後、手を洗い数回水を流して便槽に送る。水量は、水洗トイレの8分の1程度で済む。とても合理的だ。便槽は、トイレの建物の外に円筒状のコンクリート製溜め槽を埋めている。直径1.5m、深さ1個5坪、2段にあるいは3段に重なる。家族の多い家では、6段、3坪の深さに埋めこむ例もあった。

農山村トイレ

タイ式では、コンクリート槽の横サイド数力所に、3坪程度の穴を開けて、埋めた側面の土壌に

「現地に適したトイレの仕組みは、ないものだろうか」



安藤 公門

1998年、子どもたちがふんの塊をおもちゃにして遊ぶ光景が報告されて以来、シャンティ山

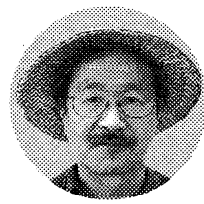
東流西流

身近で大切な問題として検討するようになった。先進国の都市型下水道は、農山村地帯の現場なので選択からはずれる。日本の農業集落排水事業も予算規模の大きさから除外された。世界の国際支援を行っている国や日本の団体はどうか。調査も行った。事例は意外と少なかった。多くの団体が取り組みたくて

困難な課題

タンクなどで採用されていることも分かってきた。壁は厚く、問題が止められていて、維持

(宇部市、シャンティ山口理事)



安藤 公門

「そうか、栄養として肥料に使うことを考えればいいのだ」

考えあぐねたある日、シャンティ山口の事務局、佐伯昭夫さんは、タイの村でトイレと便槽の周りで草がよく生えていることに気づいた。草に勢いがある。野菜を植えている家もある。よく育つからだ。しかも、他と比べて独特の甘みがあった。おいしいという。

## 東流西流

佐伯さんは、山口市大内矢田の生まれ。今は密集した住宅地だが、幼いときは一面水田と畑であった。そこでは肥溜（こ）えだ）めがあり、畑にまいていた。人のふん尿は貴重資源として集められていた。「下肥え」である。畑仕事の手伝いで、父親と畑に肥え運びをやったこともある。肥料が効いてうまくなる。問題は日本でも忘れられようとしているこの知恵を、タイでどのよう実践していくかだ。ちょうどそんなとき、佐伯さんと私は出会った。

### 肥溜めと畑の知恵

帰国して調べた。肥溜めとふん尿利用は、江戸（宇部市、シャンティ山口理事）



安藤 公門

ケ森駐車場の公衆トイレを例に無放流式で電気が不要、維持管理費が低廉である、農家の知恵が実際に応用されていることを説明した。佐伯さんに説明し、同時にタイのトイレと衛生状態をつぶさに聞いて、私はタイの農山村にどうしても行ってみたいとなった。その年3月のシャンティ山口の10日間の現地ツアーに参加した。腰の軽さと好奇心からではあるが、それだけでなく、

ある人の紹介で2002年、佐伯さんと出会った。私は、「肥溜（こえだ）めと畑の知恵」を生かした水処理技術の設計・施工販売を始めて10年目を迎えていた。自然公園などで三十数件施工。そのうちの美東町の秋吉台オートキャンプ場と真長田定住センター（役場支所）に佐伯さんを案内した。工事中だった秋吉台カルストロードの長者

### 秋吉台のトイレ

その間に酸素がないときに活躍する微生物（嫌気性菌）の働きでガスと水への分解、発酵と滅菌が行われる。肥桶で運ぶの

## 東流西流



安藤 公門

「肥溜(こえた)めと畑の知恵」の応用の見通しを得た佐伯さんは、試行錯誤を繰り返して、2005年に記念すべき第1号トイレを設置した。当初はシャンティ学生寮の予定だったが雨季で工事に不都合が出て、セーンサイ村の個人住宅になった。親戚、近所の人、それにシャンティ学生寮の学生とスタッフが工事を

東流西流

した。400坪近い竹の塀に囲まれた敷地の中心で、野菜畑に利用するその一角は犬やニワトリ、子フタから守るために青いネットを張ってある。主人のスイさんは一昨年私がホームステイしたとき、「くみ取りトイレはいらぬし、トイレ周りがきれいになって、野菜がよく育つのでうれしい」とニコニコと説明してくれた。コンクリート製品、ヤシガラ、竹と竹製品を作る腕、焼いて使う粘土質の土壌、香草の知恵など、現地は見方を変えれば素材と技の宝庫といえる好条件。最先端で高価な工業資材でも原始的な手法でもなく、現地に合致した「適性技術」の可能性が広がった。ふん尿を衛生的に処理し、同時に資源として活用するエコトイアの完成である。実は、工事をしたスイさん宅は、シャンティ山口の現地工事の現在のスタッフ責任者・デュボンさんの奥さんの実家。現地ではどんな人と活動しているのかという質問をいただいた。次はそのこ



安藤 公門

タイのパヤオ県へ着くとシャンティ学生寮に1、2泊させてもらう。今の寮の責任者はガラソンさんだが、その前はデュボンさん。この二人や現地の人に会えると思うと心が弾む。ガラソンさんもデュボンさんも難民の子ども。ラオスから国境を越えてタイへ。デュボンさんは現在40歳だが、3歳のときにラオス内戦に遭遇し、

東流西流

広いメコン川をいかだと竹ざおでタイ側へ渡ってきた。よくぞ生きていたと今でも言われるそうだ。小学校は山岳地帯に住み、無国籍で学校に通う。中学、高校はお寺に預けられ修行しながら通学。アメリカのモン族の支援でチェンマイの農業大学の名門メジョー大で学び、卒業後、SVA(シャンティボランティア会)の職員となり、初代のシャンティ学生寮の管理責任者を務める。いつも笑顔で穏やか

デュボンさん

現在、シャンティ山口寮の現地工事責任者として、寮の卒業生二人とともにエコトイアの柱に自立へ向けた事業展開を進めている。(宇部市、シャンティ山口理事)

**東流西流**



安藤 公門

便所の女神様は飛び切りの美人だぞうだ。「特別に力の強い神様で、ほかの神様をお願いしても通らない願い事は、便所の神様をお願いしたら通る」という。(安溪遊地・安溪貴子著『島からのことづてー琉球弧聞き書きの旅』葦書房)

口から青く赤く炎がたつていて。佐伯さんも笑顔で手を火にかざしている。セーンサイ村の保育園の台所だ。ガスは裏の公衆トイレのメタン収集装置からガスパ管で運ばれる。子どもたちの衛生問題から始めたトイレ作りは、日本の肥溜(こえた)めいと希望をもって生きらと畑の知恵が役立つことを、女神様へ立ち、現地で工夫が加えられ、燃料製造装置となって実を結んだ。今年からホイプム村で300人5戸の集落全体を対象に取り組む。遺伝子組み換え農業

**女神様への願い事**

と対峙(たいじ)し、焼畑で荒れた山林回復を含む事業だ。

私は、少しでも役に立てばと参加したが、モング族の人たちからアジアの隣人の助け合いのあり方を学び、たくさんの助けをいただいた。願いかなって「ふん尿は資源」という実例と確信を得た。

世界中の子どもたちが笑いと希望をもって生きら願うこと、女神様へのお願いにして拙文の筆をおきたい。ご愛読ありがとうございます。ごまぎりました。今後

の進行は、「村のトイレ屋」でネット検索してください。(宇部市、シャンティ山口理事)

**タイでトイレをつくる**

～タイで生かされた肥溜めと畑の知恵～  
 山口新聞コラム『東流西流』  
 2010年5月～6月毎週水曜日に掲載  
 安藤 公門 (あんど う きみと)  
 NPO 法人シャンティ山口理事  
 (有) あったか村 取締役 (水環境)  
 ブログ: 村のトイレ屋 糞尿資源考  
<http://atta-an.seesaa.net/>  
 連絡先: 山口県阿武郡阿武町宇生賀 2898  
 あったか村 TEL/FAX 08388-5-0960  
 山口県宇部市錦町 17-19  
 Email: ando-maipenrai@nifty.com  
 携帯電話: 080-6331-0960

—環境衛生活動募金にご協力をお願いします。—